正親校だより

令和６年１０月２８日
【全国学力調査号】
京都市立正親小学校
校長　長谷川　英司
http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/seishin-s/
Ｅメール：seishin-s@edu.city.kyoto.jp

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

子どもを共に育む京都市民憲章
京都はぐくみ憲章
社会のあらゆる場で実践し、行動の輪を広げましょう！

令和６年度　全国学力・学習状況調査の結果より

4月18日に６年生で実施しました「令和６年度全国学力・学習状況調査」について、本校６年生の結果をお伝えします。

総合結果（国語、算数）

「知識・技能」「思考・判断・表現」の２つの観点の回答状況について、国語、算数共に、どちらも全国平均を大幅に上回りました。特に「知識・技能」に関わる問題の方が、正答率が高くなっています。対して「思考・判断・表現」に関わる問題では、「知識・技能」の正答率と比較すると若干低い数値となっています。

国語の結果より

「言葉の特徴や使い方」に関する問題と「情報の扱い方」に関する問題で、全国平均を大きく上回りました。

選択式に比べて記述式の問題は、正答率が下がっています。特に「取材メモを基にして書く」問題では、6 割を下回っています。この問題では、文字数や内容について３つの条件があり、それを踏まえて文章を書く必要があります。正答できなかった理由として、問題を把握できていないことが考えられます。また、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」問題は、選択式でも課題が見られました。長文を読んで正しく答えを選ぶには、思考力や判断力が試されます。

このような結果を受け、日頃からこのような問題解決学習に取り組むことも必要ですが、生活の中で、自分の考えを明確にして相手に伝える力や長い文章を読み取る力をつけることが大事ではないかと考えます。

算数の結果より

特に「数と計算」の問題では全国平均を上回り、特に高い正答率でした。また、国語と同様に知識・理解を問う問題の正答率は 10%以上全国平均を上回りました。

全国的にも「速さ」の問題に課題があるとされていますが、本校でも「速さ」の記述式問題の正答率は 5 割を下回りました。A と B の速さを比べてどちらが速いかを判断し、その理由を答える問題で、9 割近くがどちらかを選ぶことはできていても、理由が不十分であるという結果でした。

「図形」の領域では、直径 22 cmのボールがぴったり入る立方体の体積を求める式を書く問題でつまずきが見られました。これは、単純に体積の公式がわからなかったから（5 年生の春に履修）と考えることができますが、体積のたて・よこ・高さがすべて 22 cmと図に書かれている問題なら立式できたのではないかと予想することもできます。

いずれも、学んだことを生活の中で活用することが大切ではないかと考えています。

児童質問紙調査より

○「自分には良いところがある」「人が困っているときは進んでたすけている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」といった質問には、ほとんどの児童が肯定的な回答をしていました。

○「コンピュータなどのＩＣＴ機器の活用」についての質問には、「楽しみながら学習を進めることができる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」など肯定的に捉えた回答が多く、積極的に活用したいと考えている児童が多いことがわかります。今年度から、GIGA 端末を机の引き出しに入れています。授業の中で活用する場面や、持ち帰って家庭学習で使う機会を増やすことで、GIGA 端末を上手に使えるようになってきました。さらに、GIGA 端末をノートのように使い、知りたいことを調べる姿がたくさん見られるようになりました。今後も ICT をうまく活用しながら、子どもたちの学習意欲を引き出し、主体的に学ぶ姿を追求していきたいと思います。

○「テレビゲームや SNS・動画視聴などをどれぐらいするか」という質問では、全国よりも時間が少ない結果ではありますが、いずれも「1 時間以上 2 時間より少ない」と回答した児童が最も多いという結果でした。新聞等でも報じられていますが、SNS や動画視聴の利用時間が長いほど各教科の平均正答率が低下する傾向がみられるそうです。中学生になるとさらに利用時間が増える傾向があることも踏まえ、学校と家庭で連携しながら家庭学習の習慣を身につけられるようにしていきたいと思います。